

舞鶴から希望の京都をつくろう！～地域力の創造と市民の幸せを目指す～

京都府議会議員

池田まさよし通信

発行：池田まさよし事務所
（第42号）〒624-0853 舞鶴市南田辺71番地1 TEL:0773-77-1722 FAX:0773-77-1723 ホームページ <http://www.ikedakai.net>

向寒の候 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は、池田正義の議員活動に対しあたたかいご支援ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

令和7年5月の臨時議会で、第84代議長に荒巻隆三議員、第76代副議長に兎本和久議員が選出されました。私は議会運営委員会、危機管理・健康福祉常任委員会、子育て環境の充実に関する特別委員会に所属することになり、自由民主党京都府議会議員団のなかでは副団長として元気に活動させていただいております。

9月定例会では、今年の夏の記録的な高温や渇水により生じた影響への対策や、厳しい状況におかれている中小企業の事業活動を守るためにの対策などが予算化され、その概要を掲載しています。また、一般質問に登壇し京都北部が抱える諸課題について知事並びに理事者に質問したその内容も裏面に掲載しています。

今定例会では決算特別委員会が設置され、私はその委員として審査させていただきました。令和6年度一般会計の決算額は約1兆784億円で、その概要については、子育て環境日本一に関する取り組みなど、総合計画に基づいた「あたたかい京都づくり」の実現に向けた各種施策や、長引く物価高騰対策への取組。また、社会保障関係経費の増加など、厳しい財政状況の中でも、好調な企業業績及び物価高等の影響を受けた府税収入の増などにより、収支は黒字でありました。一方で、府債残高を見ますと、前年度から259億円減少し2兆3,393億円となったものの、依然として高い水準で推移していることから、京都府財政は引き続き厳しい状態となっています。府税収入につきましては、好調な企業業績を受けた法人事業税の増により、法人2税（法人府民税・法人事業税）が51億円の増収、また、物価高等を反映し、地方消費税が48億円の増収となるなど、総額は135億円増の3,079億円となったところであります。しかしながら、今後は米国の関税措置に伴う影響や為替の状況、金利の動向など、税収を大きく左右する事象も多く、先行き不透明な状況です。

こうした財政状況のもと、安定的・計画的な財政運営のため、財政調整基金の積立てを求めてきたところ、15億円の残高を確保していただきました。引き続き持続可能な財政構造の構築に向け全力で取り組んでいただきたいものです。

今後とも、国・府・市連携のもと地域課題の解決のため努めて参りますのでご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

令和7年度9月補正予算案

総額 29億9,200万円

① 高温・渇水から農業を守る取組

- ◆農業水利施設や農家等の渇水対策を支援 5,000万円
- ◆高温・渇水の影響を受ける農業者の経営安定を図るための支援等を実施 9,000万円

② 中小企業者の事業活動を守る取組

- ◆中小企業者の賃上げが可能となるような経営基盤の強化を支援 2億8,000万円
- ◆物価高騰や人手不足の影響を受ける建設業者等への支援を強化 1億2,000万円

③ 高校無償化への対応

- ◆国制度の決定に伴い高校生等の就学支援金及び奨学のための給付金を拡充 21億8,300万円

④ その他の施策

- ◆ツキノワグマによる人身被害の未然防止・安全確保のための体制を構築 1,200万円
- ◆国指定文化財建造物（国宝・重要文化財）の保存修理を実施 9,900万円

債務負担行為 6,100万円

⑤ インフレスライド条項適用への対応

- ◆労務単価や資材費の上昇等に対応するため、契約済の工事請負契約の予算を増額 1億5,800万円

債務負担行為 7億3,400万円

池田まさよし活動スナップ

5月4日
舞鶴つじまつり5月10日
東舞鶴駅にて府政報告

5月12日 朝来中圃場整備視察



5月24日 白鳥トンネル開通式



5月25日 舞鶴田辺城まつり



6月28日 府政報告会(行永公会堂)

8月1日
港区・竹芝地区視察8月7日
佐賀県防災航空センター視察

8月9日 朝来盆踊り



8月31日 京都府防災センターにて



9月8日 真庭市視察



10月11日 海上保安学校入学式

10月12日
平和記念式典(舞鶴市)10月19日
舞鶴市防災訓練(明倫小学校)10月20日
知恩院勢至堂保存修理視察10月21日
木造倉庫(京北森林組合)視察

池田まさよし事務所 ご案内

西事務所 舞鶴市南田辺71番地1



東事務所 舞鶴市森本町29-5

お気軽に
お立寄り
下さい京都府の
ホームページも
ご覧いただけます市民の皆様からの
ご意見・ご質問も
受け付けております。

9月定例会 一般質問に登壇（質問と答弁の概要）

1 府北部地域の医療体制について

【質問】国は、2040年頃の医療ニーズの変化を見据え、従来の病床機能の再編・調整を中心とした取組から、地域完結型の医療・介護提供体制への転換を図るために、入院、外来、在宅医療、介護との連携を含む医療提供体制を対象とした取組への転換を図ろうとしているが、本府は、地域医療の再構築に向けた国の動きを踏まえ、今後どのように地域医療体制の構築を進めていくのか。

【西脇知事答弁】これまで、「京都府地域包括ケア構想」に基づき、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる2025年に向けて、高齢化の進展に対応するための病床機能への転換などを進めてきました。今後、2040年頃に向けて、国の検討状況を踏まえ、各地域の地域医療構想調整会議で、医療・介護関係者や市町村と協議を進め、必要な病床機能に加え、今後需要が増加する高齢者救急や在宅医療の体制整備を図っていきます。あわせて、医療人材の確保や定着、病院間の連携による人材の有効配置などの取組を推進し、持続可能な医療提供体制の確保に努めます。

【質問】地域の医療資源等の状況を踏まえた診療機能の集約化と広域的な医療連携の強化が重要と考える中、医療提供体制の再構築について個別に検討が進む舞鶴市や丹後地域の動きに対しては、府北部地域としてより広域的な視点で検討することも必要と考えるが、本府においてどのように検討し、地域医療提供体制の構築を進めるのか。

【西脇知事答弁】北部地域は、人口減少のスピードが京都府の平均に比べて速く、医療従事者の確保も一層困難になり、より積極的な対策の推進が必要です。また、脳血管疾患などの専門性が高い治療では、高度な設備や人員が必要となり、北部地域全体での医療提供体制の検討も必要です。舞鶴市の公的4病院の再編については、舞鶴市のみならず、中丹地域を含む北部地域全体の医療提供体制を構築する上で重要です。府では、今後、地域医療介護総合確保基金などを活用し、病院再編による中丹地域や北部地域全体への影響を分析します。さらに、中丹地域医療構想調整会議などにおいて、北部地域全体の状況も踏まえながら、持続可能な医療提供体制について検討を進めます。



2 京都舞鶴港の振興・整備について

【質問】舞鶴国際ふ頭は、国の事業再評価により工期が大幅に延長され、事業費も大きく増加したが、多くの企業から早期の完成を待ち望む声があり、リダンダンシー機能の確保や利用荷主を逃す懸念がある中、舞鶴国際ふ頭の第2バース及びII期整備の進捗や直轄事業による第3バースの事業化など、早期供用に向けて本府として今後どのように国に働きかけていくのか。

【建設交通部長答弁】現在、舞鶴国際ふ頭は、国が第2バースの岸壁工事を、京都府がII期整備の外周護岸の工事を行っていますが、両工事で必要となる特殊な地盤改良船が全国的に不足をしており、完成までは時間を要する見込みです。一方で、舞鶴国際ふ頭は、議員から指摘のあった課題に加えて、荷捌きスペースが狭く大量一括輸送に対応できないという課題もあり、複数の港湾利用者から両事業の早期完成を望む声が寄せられています。そのため、京都舞鶴港振興促進協議会を通じて、多様な関係者の意見を国に届け、第2バースの早期供用を強く要望します。また、第3バースについては、事業化につながるよう貨物需要の拡大に努めるとともに、国に対して、事業化を働きかけていきます。

【質問】本年7月にコロナ禍以降初めて舞鶴国際ふ頭で大型クルーズ船を受け入れたが、舞鶴国際ふ頭での受け入れには、貨物船の荷役への影響や乗客の受け入れに係る仮設設備の設置、市街地へのアクセスの脆弱さなど、多くの課題があると聞くことから、旅客ターミナル等の設備が整い市街地へのアクセスが良好な第2ふ頭で大型クルーズ船を受け入れるべきと考えるがどうか。



京都舞鶴港 国際ふ頭

【建設交通部長答弁】旅客の受け入れ施設が整っている第2ふ頭では、現在、水深不足により11万トンを超える大型船の受け入れができないため、やむを得ず物流の拠点である舞鶴国際ふ頭で大型クルーズ船の受け入れを行っています。この状況を改善するため、来年度から第2ふ頭の浚渫工事を予定しており、工事の完了により、クルーズ旅客の人流を物流の拠点である舞鶴国際ふ頭から分離し、港の効率的な運用を図っていきます。

【質問】京都舞鶴港におけるクルーズ船の寄港の増加にも寄与する「魅力あるウォーターフロントを核とする港を活かしたまちづくり」を本府としてどのように検討しているのか。また、地域資源を活かしたまちづくりの好機を迎える中、府北部地域の振興のため、どのように物流・人流の機能強化を図っていくのか。

【建設交通部長答弁】西港の中心に位置する大野辺緑地を市民やクルーズ旅客などが集う魅力的な空間として再整備するとともに、散策路の整備などにより周辺の観光スポットへの連続性を確保したいと考えています。さらには、舞鶴市と連携し、西港地区と周辺市街地の回遊性を高めるなど、まちづくりと一体となった賑わい空間の創出に取り組んでいきます。

3 気候変動に対応した農林水産研究の強化について

【質問】農林水産分野は気候変動による影響を受け易く、品質低下や収量減少が懸念される中、深刻な影響が続けば、本府のブランド商品の優位性が失われ、営農意欲の減退、ひいては農林水産業の衰退にもつながりかねないと危惧している。こうした危機を乗り越え、生産活動を継続するためには、気候変動に対応した革新的な技術開発とその普及が不可欠であり、府農林水産技術センターの役割は益々重要となる中、人材や資金、施設などの研究資源を集中し、より高度な研究開発体制の整備を行い、技術開発の充実化・加速化を図っていくことが急務と考えるが、気候変動に対応した研究開発をどのように進めていくのか、所見を伺いたい。



海洋センターを視察

【農林水産部長答弁】京都府における気候変動の影響としては、高温・渇水による米の品質低下や、京野菜・果樹の生育不良、病害虫の増加、海水温の上昇によるスルメイカをはじめ主要魚種の漁獲量減少や、丹後とり貝の大量死などの深刻な被害をもたらしています。

これらの課題に対応するためには、技術開発による抜本的な対策が不可欠であり、農業では、高温に強い新品種の育成や、人工衛星データに基づく生育予測、漁業では、海洋データを活用した漁場予測や、水質変化に対応した養殖環境の自動制御システムなどの研究を加速する必要があります。

現在、農林水産技術センターについては、綾部市への移転を契機とした機能強化を図るための整備計画の検討を進めるとともに、海洋センターについては、オープンイノベーションにより、海洋調査データやスマート技術を活用した革新的技術を開発する拠点機能などを含めた新たなプランづくりに着手しています。

今後とも、気候変動に対する現場ニーズをしっかりと踏まえ、早期の普及を視野に入れた研究開発を推進することで、持続可能な農林水産業を実現していきます。

4 まちづくりに必要な道路整備について



白鳥トンネル4車線化事業（東側より）

【質問】本年5月に、歩道を設置した2車線の新しい白鳥トンネルが供用され、通行時の安全性や快適性が向上したとの声とともに、渋滞の緩和と更なる安全性の向上のため、早期の4車線化を望む意見も聞くが、舞鶴市の東西の市街地を結ぶ小倉西舞鶴線の交通安全や円滑な通行の確保に大きく寄与する白鳥工区について、4車線化事業の現状と今後の見通しはどうか。

【建設交通部長答弁】本年5月24日に、新しい白鳥トンネルを開通させることができましたが、トンネルの開通により歩道や十分な車線幅員が確保されたことで、歩行者や自転車の通行が増加しており、大型車も円滑に通行できるようになりました。既に、トンネル以外の区間の4車線化に向けて切土工事を進めており、今年度中には、旧トンネルの断面拡大工事に向けた調査にも着手する予定です。引き続き、4車線化の早期実現に向け、着実に進捗を図ります。

【質問】府北部地域の観光や産業の発展に欠かせない社会基盤である舞鶴若狭自動車道は、舞鶴西ICから福井県の敦賀ICまでの区間が暫定2車線になっており、舞鶴西ICから舞鶴東IC間は4車線化の優先整備区間にも選定されていない。原子力発電所が集中する若狭湾沿岸地域では、原子力災害時の避難路が非常に重要であり、暫定2車線では原発事故等の大規模災害時の円滑な避難行動に支障が生じることから、舞鶴西ICから舞鶴東IC間の早期4車線化の実現が必要と考えるがどうか。

【建設交通部長答弁】早期の全線4車線化が必要と考えています。しかしながら、舞鶴西インターチェンジから舞鶴東インターチェンジの区間について、国から優先整備区間に選定されておらず、大規模災害時における円滑な避難や輸送の観点から大きな課題と考えます。優先整備区間は、渋滞や事故防止等の客観的指標に基づき、国において選定されるため、府としては、原子力災害の避難路を指標に位置付けるなど、地域の実情を踏まえた指標の見直しを求めるとも含め、優先整備区間に選定されるよう、7月にも国及びNEXCO西日本へ要望を行いました。

昨年の能登半島地震からの復旧に際しては、災害からの早期復旧の観点から、高規格道路の4車線化の重要性が再認識されたことも踏まえつつ、引き続き、早期4車線化の必要性を強く訴えています。